

愛努文學

アイヌ文学
Aynu Literature

文・圖 | 丹菊逸治 TANGIKU Itsuji
(北海道大學愛努・先住民研究中心准教授)

譯者 | 陳由璋 (政治大學民族學系博士生、日本北海道大學愛努・先住民學講座博士生)

文責・圖 | 丹菊逸治 TANGIKU Itsuji
(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授)

訳者 | 陳由璋 (政治大学民族学学科博士課程、北海道大学アイヌ・先住民学講座博士後期課程)



2013年から始まった「イランカラッテ」キャンペーンのロゴマーク。アイヌ語とアイヌ文様を組み合わせたデザインを使用し、アイヌ語の「こんにちは」で北海道の特色を押し出している。(出典:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議会 <http://www.irankarapete.com/>)

2013年迄今産官學合作舉辦的irankarapete活動標誌。設計概念結合了愛努語與愛努紋樣。以愛努語的您好打造北海道的當地特色。(圖片來源:「イランカラッテ」キャンペーン推進協議 <http://www.irankarapete.com/>)

アイヌ 民族は伝統的には文字を用い
ませんでした。その伝統的な文学は口頭
によるものです。アイヌ近代文学も全体と
してみると、伝統文学との連続性を保
っています。

アイヌ伝統文学

叙事詩 (yukar, sakorpe, hawkiなど地域により呼び名は異なります)。少年英雄や少女を主人公とする長大な冒険譚・系譜譚です。語りには数時間かかります。4行1連・頭脚韻を基本とし、形式的にも内容的にもモンゴルの叙事詩との類似があります。戦いの描写が続く勇壮な物語です。

愛努 民族在傳統上是未曾使用過
文字。其傳統性的文學是依據口
頭傳承。如果把愛努近代文學也視為整
體的部分來看，是與傳統文學保持其連
續性。

愛努傳統文學

叙事詩 (因區域會有 yukar、sakorpe、hawki等不同的稱呼)。是英雄少年或少女為主人翁的長大冒險故事、譜系故事。故事講述需要數小時。以4行1段、首尾押韻為基本，形式上內容上也與蒙古的叙事詩有所類似。為連續描寫戰鬥的雄壯故事。

『クトゥネシリカ』の1510-1531行
Ukampeskaunkur ウカムベシカウシクル
aarkotomka であろうか
ran tuyka ta (天から) 降下するが早い
rayoci rew ne 虹の曲線の如く

ikurkasike 私の上に
kotametaye 刀を振り下ろす

Iyonuytasa 反対に
tam kur poki その刃をくぐり
akotametaye 我が刀をふるえば
earutorun その瞬間

aisitomarep 恐るべき者
ne a korka ではあっても
aetametoko 私の刃の先に
sennatara 音を立てて

kamuy inotu 勇者の魂が
hopuni humi 飛び去る音
turimimse. 鳴り響く

siknu kamuy 生き返る靈魂
ne kotomno であるらしく
sicupka ta 真東に
arpa humi 行く音が
turimimse. 鳴り響く

神謠 (oyna, kamuyyukarなど地域によって呼び名は異なります)。神々を主人公とする物語です。動植物神の他に、オキクルミ、サマユンクルなどの「人間の代表神」(文化英雄神)が登場することもあります。語りの時間は数分から数十分程度です。4

《Kutuneshirka》の1510-1531行
Ukampeskaunkur Sinutapka之人
aarkotomka 應為該人
ran tuyka ta (從天) 落下立即
rayoci rew ne 如虹曲線

ikurkasike 在吾上方
kotametaye 揮刀落下

Iyonuytasa 在反方向
tam kur poki 穿過那刃
akotametaye 震搖吾刀
earutorun 那個瞬間

aisitomarep 可畏之人
ne a korka 即使如此
aetametoko 吾刃前端
sennatara 發出聲響

kamuy inotu 勇者之魂
hopuni humi 飛離之音
turimimse. 響徹四方

siknu kamuy 復活之魂
ne kotomno 疑為該魂
sicupka ta 朝正東方
arpa humi 轉移之音
turimimse. 響徹四方

神謠 (因地區會有 oyna、kamuyyukar等不同的稱呼)。是以眾神為主人翁的故事。除了動植物神之話，也有okikurmi、samayunkur等「人類代表神」(文化英雄神)登場的情況。故事



知里幸恵『アイヌ神謡集』は1923年に郷土研究社より刊行された。写真は1978年以降もっとも入手しやすい岩波文庫版の表紙。知里幸恵（1903-1922）は自らが伝承していた神謡13編を韻文体のアイヌ語で執筆、日本語訳も付した。なお現在では著作権切れによりインターネット上の「青空文庫」にも収録されている。

知里幸恵《愛努神謡集》於1923年由郷土研究社出版。照片是1978年之後最容易取得的岩波文庫版本的封面。知里幸恵（1903-1922）將本身傳承的13篇神謡用韻文體的愛努語寫下，並附上日本語翻譯。並且現在因為已過著作權限，所以也被收錄在網路上的《青空文庫》之中。



菅野れい子『写真で綴る 菅野茂の生涯』(2008年 農山漁村文化協会)表紙。菅野茂(1926-2006)の事績をまとめた写真集。菅野茂にはアイヌ語・アイヌ文化に関する多くの著作がある。また、故郷平取町二風谷を中心にアイヌ口承文芸の録音活動を続け膨大な資料を残した。アイヌ民族の出自を明かした初の国会議員(参議院、1994-1998)となった。

菅野れい子(KAYA Reiko)《用照片拼織 菅野茂の生涯》(2008年 農山漁村文化協会)封面。整理菅野茂(1926-2006)事蹟的照片集。菅野茂有許多愛努語、愛努文化相關著作。另外，以故郷平取町二風谷為中心，因持續進行愛努口傳文藝的錄音活動，故留下大量的資料。是表明自身是愛努民族的首位國會議員(參議院，1994-1998)。



松本成美編『久摺～山本多助エカシ生誕百年記念特集号』(2005年 釧路アイヌ文化懇話会)表紙。釧路の郷土雑誌『久摺』の山本多助特集号。久摺は釧路(くしろ)の旧漢字表記のひとつ。釧路地域を中心に活動したアイヌ文化活動家、山本多助(1904-1993)の年譜、著作目録、評伝等が収録されている。

松本成美編《久摺～山本多助ekasi^註生誕百年記念特集號》(2005年 釧路愛努文化懇談會)封面。釧路の郷土雜誌《久摺》的山本多助特集號。久摺是釧路(kusiro)的舊漢字表記之一。該書收錄了活動中心為釧路地區的愛努文化活動家山本多助(1904-1993)的年譜、著作目録、評傳等。
(譯者註: ekasi是愛努語對成年男子的尊稱，意思近為紳士。)

行1連・頭脚韻を基本とし、各行に「サケヘ」と呼ばれるリフレインがつくのが特徴です。形式上はツングース諸民族のシャマン歌謡と類似しており、神々に関する内容であることからみても、影響関係があると考えられます。叙事詩より新しく清帝国期の影響という可能性があります。

講述時間為數分鐘到數十分鐘程度。其特徵是以4行1段、首尾押韻為基本，各行附加稱作「 sake he 」的重複句 (refrain)。形式上與通古斯各民族的薩滿歌謠類似，從與眾神有關的內容這件事來看，也能推想出有影響關係。受到清帝國時期的影響，有比叙事詩還要新的可能性。

知里幸恵『アイヌ神謡集』
第6話冒頭10行ほど

hotenao sineantota	ある日に
hotenao nismuas kusu	退屈なので
hotenao pita sapas	浜辺へ出て、
hotenao sinotas kor	遊んで
hotenao okayas awa	いたら
hotenao sine pon rupne aynu	一人の小男が
hotenao ek koran wa kusu	来ていたから、
hotenao hepasi san ko	川下へ下ると
hotenao hepasi cietusmak	私も川下へ下り、
hotenao heperay ek ko	川上へ来ると
hotenao heperay cietusmak	私も川上へ行き道をさえぎった。

知里幸恵《愛努神謡集》
第6篇開頭10行左右

hotenao sineantota	於某一日
hotenao nismuas kusu	因為無聊
hotenao pita sapas	前去海邊
hotenao sinotas kor	在玩耍
hotenao okayas awa	的時候
hotenao sine pon rupne aynu	一位少年
hotenao ek koran wa kusu	來到此處
hotenao hepasi san ko	他往下游走
hotenao hepasi cietusmak	我也往下游
hotenao heperay ek ko	他來上游
hotenao heperay cietusmak	我也往上游阻擋通道

主人公はオオカミの子供、この「小男」は inunpepeceppo 「炉縁魚」という魚が化けたものです。自分の正体が分からなくなった魚が人々に謎かけをして困らせるので、オオカミの子供が正体言い聞かせて退散させます。各行に「hotenao」というリフレインが付きます。

伝統歌謡も韻文です。4行詩 (upopoなど) もしくは、4行詩連の連鎖形式 (yaysamaなど) です。
Matnaw réra 北風が
apaca eosma 戸口から入ってくる
Urannisi 薄い雲が
kanto korikin 天にのぼっていく

また、神々や先祖への祈り、人々への演説も韻文で語ります。国会議員(参議院1994-1996)だった菅野茂もこの文体を用いて国会で演説しました。民族運動家の山本多助はこの文体を書き言葉に採用しようとした。韻文で語られない散文物語もあ

主人翁是小狼，這位「青年」是所謂的 inunpepeceppo 「爐框魚」這個魚所化身的。因為這隻魚不知道真正的自己而要人們猜謎讓他們困擾，所以小狼便把他真正的身分告訴他將他趕走。每一行都附有「hotenao」這個重複句 (refrain)。

傳統歌謠也為韻文。4行詩 (upopo等)，亦或是4行詩段的連鎖形式 (yaysama等)。
Matnaw réra 北風
apaca eosma 從窗進來
Urannisi 薄雲
kanto korikin 往天昇去

另外，向眾神或祖先祈禱、向眾人演說也是以韻文講述。曾任國會議員(参議院1994-1996年)的菅野茂也是用這種文體在國會演說過。民族運動家山本多助則曾

りました。人間同士の話、神々との関わりのお話など多様な内容です (uepekere, isoytakなどと呼ばれます)。また、自分の先祖がどのようにして今の土地に来たか、自分がどのような体験をしたかなどを語る由来譚・体験談 (upaskuma) も散文です。これらは自分たちの権利の正当性を主張するためのものであり、いわば口承の歴史です。

Aynu itak anakne	アイヌ語は
Esasi pakno	いつまでも
Ucaskoma oman	歴史が語り伝えられ
Tanneno sikama kuni	長い間保たれるべく
Tane okay utar	今いる人々が
Utaspano	お互いに
Ye kasuy ki wa	話をするのを励まし合い
Itak otta	その言葉を
Kanpi ka ta	紙の上に
Pirka sikama	うまく保存して
Ki kun pe ne	おくべきだと
An i yaysokoro=an.	考えています
(山本多助『アイヌモシリ』より) 韻文による書き言葉の試み	

萱野茂による国会での演説

Teeta anakne	ずっと昔、
Aynumosir	アイヌ民族の静かな大地、
Mosir so ka ta	北海道に
Aynu patek	アイヌ民族だけが
An hi ta anakne	暮らしていた時代、
Uwepeker	アイヌの昔話と
Koraci sinne	全く同じに、

想要將這種文體作為書寫語言。也有不能用韻文講述的散文故事。是人類之間的故事、眾神相關的故事等多樣的内容。(被稱為uepekere、isoytak等)。此外、講述自己的祖先是怎樣來到今日的土地、自己有過什麼體驗的由來談、經驗談 (upaskuma) 也是散文。這類性質是主張我群權利的正當性、也就是口傳的歷史。

Aynu itak anakne	愛努語
Esasi pakno	永遠地
Ucaskoma oman	應該被歷史傳頌歷史
Tanneno sikama kuni	長久地被保存才是
Tane okay utar	現在的人們
Utaspano	彼此間
Ye kasuy ki wa	相互鼓勵所說的話
Itak otta	將這個語言
Kanpi ka ta	在紙上
Pirka sikama	先好好保存
Ki kun pe ne	這樣才對
An i yaysokoro=an.	我們是如此思考的
(選自山本多助『ainu moshir』) 以韻文為書寫語言的嘗試	

萱野茂的國會演説

Teeta anakne	好久以前
Aynumosir	愛努民族的寧靜大地
Mosir so ka ta	在北海道
Aynu patek	只有愛努民族
An hi ta anakne	生活的時代
Uwepeker	與愛努的傳說故事
Koraci sinne	完全一樣、

Yuk ne ciki	シカであっても
Sípe ne ciki	シャケであっても
Nep pakno	たくさん
Oka p ne kusu	いたので

Nep aerusuy	何を食べていとも
Nep akonrusuy	何を欲しいとも
Somo ki no	思うことなく
Aynu patek	アイヌ民族だけで
Oka hi ne a korka	暮らしておったのだが

Ne usike un	そのところへ
Sísam ne manu p	和人という違う民族が
Upas horutke	雪なだれ
Ekannayukar	のように
Ekpa ruwe ne	移住してきたのであります。

(第131回国会 内閣委員会 第7号 平成六年十一月二十四日(木曜日)より)

近代アイヌ文学
短歌

近代以降、アイヌ語や日本語で短歌が作られました。短歌は5行なので、押韻は2組以上、または3行以上。また叙事詩同様のさまざまな押韻技法が用いられます。例えばバチエラ八重子による次の歌では、子音pが後ろから2音節目・3音節目交互に配置されています。

Utaspano	お互いに
ukoyki p utari	争い合う人々
renka p ani	そのために
aynu pirka p	よき人々が
mosir aekeske	世の中に絶えてしまった

Yuk ne ciki	不管是野鹿
Sípe ne ciki	不管是鮭魚
Nep pakno	大量地
Oka p ne kusu	曾經存在過 因此

Nep aerusuy	無論想吃什麼
Nep akonrusuy	無論想要什麼
Somo ki no	都不用去想
Aynu patek	只有愛努民族
Oka hi ne a korka	生活在此而已

Ne usike un	來到那個地方
Sísam ne manu p	和人這不同的民族
Upas horutke	跟雪崩
Ekannayukar	一般地
Ekpa ruwe ne	前來移住

(選自第131回国會 内閣委員會 第7號 平成六年十一月二十四日(星期四))

近代愛努文學
和歌

近代以後、使用愛努語或日本語創作短歌。短歌為5行、押韻為2組以上、又或3行以上。另外採用與叙事詩相同的各種各樣的押韻技法。例如Batchelor八重子所創作的下面這首歌、子音p被交互配置從後面算起第2音節、第3音節處。

Utaspano	彼此
ukoyki p utari	相互競爭的人們
renka p ani	因此
aynu pirka p	良善的人們
mosir aekeske	則在這世間滅絕了



伊賀ふで著、麻生直子・植村佳弘編『アイヌ・母（ハポ）のうた 伊賀ふで詩集』（2012年 現代書館）表紙。伊賀ふで（1913-1967）の没後まとめられた遺稿集。すぐれた詩人だが、生前に発表された作品は少なかった。伊賀ふでは山本多助の妹であり、アイヌ刺繍家チカッ美恵子の母でもある。山本多助のアイヌ語雑誌『アイヌモシリ』やチカッ美恵子の著作などで詩作が紹介されることはあったが、まとまった著作は本書のみである。

伊賀ふで（IGA Fude）著、麻生直子・植村佳弘編《愛努・母親（hapo）^註之歌 伊賀ふで詩集》（2012年 現代書館）封面。該書為伊賀ふで（1913-1967）過世後所整理出的遺稿集。雖為優秀的詩人，但生前發表過的作品不多。伊賀ふで是山本多助的妹妹，也是愛努刺繡家cikap美恵子的母親。她的詩作曾被山本多助的愛努語雜誌《ainu mosir》或cikap美恵子的著作等介紹過，但彙集成著作的只有本書而已。

（譯者註：hapo為愛努語「母親」之意，cikap為愛努語「鳥」之意，ainu mosir為愛努語，前者為「人」，後者為「土地」之意，兩字結合為「人的土地」、「人的國度」、「嗣世」之意，或是愛努人對北海道的稱呼。）

現代詩

伊賀ふでは日常生活や、季節描写に託してさまざまな思いを詩にしました。内容、テーマ的には同時代の女性詩人の影響を強く受けています。一方で、自然や季節の描写を比喻として用いる手法はアイヌ文学と共通する要素でもあります。伊賀ふでによるアイヌ語現代詩は、一見日本語自由律詩にみえますが、実は日本語およびアイヌ語の両方でアイヌ韻文形式が用いられています。

Pirka sikus	Yoi otenki	よいお天気
Pirka paykar	Yoi haru	よい春
Nisi ka oyka wa	Kumono kanata ni	雲のかなたに
Pinnesir nan	Oakandake	雄阿寒岳
Matnesir	Meakandake no	雌阿寒岳の
Pirka nanka	Utsukushii kao	美しい顔
Nanka pirka	Utsukushii kao dashite	美しい顔出して
Sanke wa pirka	Mata utsukushii	また美しい
Ni oyka	Ki no aida kara wa	木の間からは
Húre cikap	Akai tori	赤い鳥
Retar cikap	Shiroi tori	白い鳥

現代詩

伊賀ふで（IGA Fude）將諸般的思緒情感寄託於日常生活、季節描寫後寫成詩。内容、主題強烈受到同時代女性詩人的影響。另一方面，將自然或季節的描寫做為比喻的使用手法，也是與愛努文學共通的要素。伊賀ふで（IGA Fude）所寫的愛努語現代詩，乍看之下像是日本語自由律詩，但其實在日本語以及愛努語雙方都採用愛努韻文形式。

Pirka sikus	Yoi otenki	好天氣
Pirka paykar	Yoi haru	好春日
Nisi ka oyka wa	Kumono kanata ni	雲の彼端
Pinnesir nan	Oakandake	雄阿寒岳
Matnesir	Meakandake no	雌阿寒岳的
Pirka nanka	Utsukushii kao	美麗臉龐
Nanka pirka	Utsukushii kao dashite	露出美麗臉龐
Sanke wa pirka	Mata utsukushii	更是美麗
Ni oyka	Ki no aida kara wa	從林木之間是
Húre cikap	Akai tori	紅色小鳥
Retar cikap	Shiroi tori	白色小鳥

Utauta kani Samazama na kotori ga
Uta o utatte
さまざまな小鳥が歌をうたって

Onne to Ookii mizuumi 大きい湖
Pon pet Ogawa mo 小川も
Pirka hawe Utsukushii koe 美しいこえ

（麻生直子・植村佳弘編『アイヌ・母（ハポ）のうた 伊賀ふで詩集』（現代書館 2012）所収「おんばは喜ぶ春」より）。原文はカタカナ。日本語訳は伊賀ふで本人による。ローマ字化はアイヌ語・日本語とも丹菊が付したものの。

自分史

現代では、かつての体験談の延長として、日本語でエッセイや自分史が書かれます。小説もその延長上にありますが、現代では小説より自分史が好まれています。このジャンルは今後ますます盛んになると思われます。◆

作者簡介 | プロフィール

丹菊逸治（たんぎく いつじ）
アイヌ民族文化財団アドバイザー

東京大学フランス文学科卒業・千葉大学大学院修士・文学博士。
専門は口承文芸論。特にアイヌ語アイヌ文学、ニヴフ語ニヴフ文学。2011年より北海道大学アイヌ・先住民研究センターに准教授として勤務。公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構のアイヌ語教材事業にも協力している。アイヌ語アニメ『オルシベ・スウォフ』（Oruspe Suwop）（2012）の「ルロアイカムイ」（Ruroaykamuy）および『オルシベ・スウォフ2』（2013）の監修。また同財団のアイヌ民話撰集『イソイタク2〜4』（Isoytak）（2014〜2017）編集委員。近著としては『SFあるいは幻想文学としてのアイヌ口承文学』岡和田晃編『北の想像力』（壽郎社 2014）、「干し魚・ニヴフ人の幸せの象徴」永山ゆかり・長崎郁編『シベリア先住民の食卓』（東海大学出版部2016）など（すべて共著）がある。



丹菊逸治 TANGIKU Itsuji
北海道大学愛努・先住民研究中心准教授

東京大学法蘭西文學科畢業。千葉大學研究部結業。文學博士。
專業為口傳文藝論。特別是愛努語愛努文學、尼夫赫語尼夫赫文學。2011年起任職於北海道大學愛努・先住民研究中心准教授。亦協助公益財團法人愛努文化振興・研究推進機構的愛努語教材事業。負責監修愛努語動畫「オルシベ・スウォフ」(Oruspe Suwop) (2012) 的「ルロアイカムイ」(Ruroaykamuy) 以及「オルシベ・スウォフ 2」(2013)。另外擔任該財團法人的愛努族民話撰集「イソイタク2〜4」(Isoytak) (2014〜2017) 的編輯委員。近期著作有《做為SF或是幻想文學的愛努族口傳文學》岡和田晃編《北方的想像力》(壽郎社, 2014)、《魚乾・尼夫赫人的幸福象徴》永山ゆかり・長崎郁編《西伯利亞原住民的餐桌》(東海大學出版部, 2016) 等 (以上皆為共著)。